

2016 北いわての魅力を伝える広報誌



北いわて最前線



P.2 北いわてでつくる
若者の「未来」と「夢」



P.4 北いわて
「ブランド果物」ストーリー



P.6 ゆたかさ・つながり・ひと
～いっしょに育む「希望郷いわて」～

P.8 台風第10号による被害について
県北地域産直・特産物マップ
北緯40°ナニヤトヤラ連邦会議

久慈地域の取組

企業だけでなく、産業・業界全体の理解を促す

久慈地域では、雇用環境の改善を図るため、平成16年から「ジョブカフェ久慈」を運営しています。「ジョブカフェ久慈」では、毎年1月、久慈地域の高校2年生を対象にしたイベント「しごとスクエアin久慈」を開催。職業観の形成や、地元への就職率の向上が目的です。内容は、講話を聞いた後、企業ごとに設けられたブース（平成28年1月開催では、農林水産業、建設業、アパレル産業など地元の14業種15企業）で業種や職種についての説明を受け、質疑応答により理解を深めてもらうもの。各企業では映像を使ったり、実際に高校生に体験してもらうなど、積極的に説明に工夫を凝らしています。



「しごとスクエアin久慈」は、アパレル産業など久慈地域の企業が参加(27年度)

「地元の産業や企業を知ること、選択肢や視野を広げてもらいたいと考えています。その点で私たちの就職支援は、企業と連携しながら地域ぐるみで取り組んでいることが特徴です」と説明するのは「ジョブカフェ久慈」の就業支援員・東大野加津子さん。「しごとスクエアin久慈」は、毎年2月に久慈雇用開発協会とハローワーク久慈が開催する「事業所見学会」の参加高校生に対する「事前学習」の意味合いがあります。「高校生は、地元企業に関する情報や知識を身につけてから見学会に参加したほうが良い」と、高校・企業の双方から提案があったことが、開催のきっかけでした。そのため同見学会の参加企業には、「自社のPRだけでなく、地元産業や業界全体の話をしてほしい」と依頼

しています。

このように学校と企業をつなぐことも「ジョブカフェ久慈」の大きな役割です。

さらに、高校生に地元企業への理解をより深めてもらうために、3年前から企業やそこで働く若手社員を紹介する「久慈地区企業ガイドブック」を作成して、各高校の進路指導室に置かせて頂き、「ジョブカフェ久慈」のホームページ内でも公開しています。

他に高校生への就職支援として、定期的に高校を訪問し、就職希望生徒との面談や面接練習、各学校の要望に応じた「出前講座」

を開催しています。

定着支援セミナーで高校と企業をつなぐ

「ジョブカフェ久慈」では、若者の早期離職防止を目的に、毎年度6月と3月に久慈地域の高校を卒業して地域内の事業所に就職した若者を対象にした職場定着支援セミナー「フレッシュヤーズ・カフェ」を開催しています。

内容は講話や、地元企業で活躍する先輩の体験談、出身高校の担当教諭も招いた「ミニ同窓会」で、毎年50人以上が参加。10年前から開催

していますが「このイベントに参加して、同じ悩みを抱えている仲間が多いことを知り、自分も頑張ってみようという気持ちになった」との感想が参加者の多くから寄せられています。

そのほか、久慈管内の高校を卒業し地元企業に就職して3年以内の若者を対象にした職場定着支援も行っています。就業支援員が企業を訪問して、対象者との面談で勤務の状況や社会人になったの感想、悩みを聞き、早期離職防止の支援に取り組んでいます。

さらに、久慈地域の4市町村では、新卒者の雇用拡大と地元定着を促進するため、新卒者が地元事業所に就職して一定期間が経過した場合等に奨励金を交付しています。交付の条件や内容は、市町村により異なりますが、これらの事業と相まって、久慈地域の若者の離職率は低下しています。



「フレッシュヤーズ・カフェ」はまるで同窓会

地域ぐるみで地域の担い手を育てる「場」づくり

久慈地域では学校が行う出前授業や企業見学を通じて地域を知り、地元就職・定着につなげるため、また、県、市町村、商工団体、ハローワーク等が連携してキャリア教育の充実に向けた取り組みを地域ぐるみで推進するため、平成27年度から「久慈地域キャリア教育推進研究会」を立ち上げ活動しています。

中でも久慈市では、中学校が行う「職場体験」の支援を行うため「久慈市キャリア教育推進協議会」での事業を展開しており、学校・企業向けの勉強会や受入企業リストの作成などを行っています。

「中学生のうちに地域の産業や企業を知ってもらい、勤労観・職業観を形成したり、高校に行ってから進路選択を考えたりするきっかけにしたいと思います。その中から地域を担う人材が1人でも増えてくれれば」と同協議会事務局のキャリア教育支援員・佐々木由美子さん（NPO法人やませデザイン会議）は期待します。

このように久慈地域では、地域ぐるみで地域の担い手を育て、若者の地元定着を目指しています。



「ジョブカフェ久慈」の皆さん。前列右が東大野加津子さん、後列右から2番目が佐々木由美子さん

つくる「来」と「夢」

Future
×
Dream

地域が元気であるためには、若い力が欠かせません。にもかかわらず、新規高校卒業者の管内就職率は久慈管内で42.0%、二戸管内で35.3%となっており、地域における若者の減少や地元企業の人手不足等が懸念されます。そこで県北広域振興局では、久慈地域と二戸地域それぞれでジョブカフェを運営し、関係機関と連携しながら、若者の就業支援・地元定着支援に取り組んでいます。

新規高校卒業者の管内就職状況 (平成28年3月)

	久慈管内	二戸管内
就職者数(A)	219人	116人
県外(B)	110人	56人
県内(C)	109人	60人
うち管内(D)	92人	41人
管内就職者割合(D/A)	42.0%	35.3%

二戸地域の取組

ガイダンスや面接指導で 高校生の就職を支援

二戸地域では、若者の就職促進を図るため、二戸市と共同で「ジョブカフェいわて☆カシオペア」を運営しています。「ジョブカフェいわて☆カシオペア」では高校生を対象に様々な就職支援をしており、高校に出向いて行う「進路・就職ガイダンス」もその一つです。内容は学年ごとに異なり、1年生には仕事や働くことの意義を、2年生には仕

事の心構えやインターンシップでのマナーなどを、3年生には内定後の心構えなどを講義。講師は「ジョブカフェいわて☆カシオペア」の就業支援員が担当するほか、盛岡市の「ジョブカフェいわて」に派遣を依頼し、高校生にとって幅広く役立つ内容を工夫しています。

また、高校3年生には面接指導も実施。面接指導そのものは各高校でも教諭が行っていますが、それとは別に、初対面の第三者に向けての自己アピールの仕方を学ん



「しごとフェア」では多くの企業と話ができる(28年度)

北 い わ て で 若者の「未

若者の就業支援・取組 地元定着支援の取組

でもらったり、外部の視点で長所を引き出すことが目的です。



「ジョブカフェいわて☆カシオペア」の皆さん

地元企業への関心を高める イベントやツアーを実施

若者の地元就職支援のためには、地元企業の理解促進を図ることも重要です。そこで毎年開催しているのが、高校2年生向けの地元企業PRイベント「しごとメッセ」と、高校新卒者向けの合同会社説明会「しごとフェア」です。

前者では、参加する高校生に興味を持ってもらえるよう、各企業が「実演」や「仕事体験」など内容を工夫しながらPR。試食などを行う企業もあり、高校生に好評です。一方後者では、高校生が企業担

当者と面談を行うので、地元産業や企業への理解が深まるだけでなく、企業が求める人材像を知ることができず。また企業にとって、自社について詳しく説明・PRできる貴重な機会となっており、入社後のミスマッチ防止も期待できます。そのため、この2つのイベントに参加する高校生も企業も年々増えています。

さらに、ふだん仕事の様子を見る機会がない地元企業への関心を深めてもらうため、昨年度から中・高校生向けの「地元企業訪問バスツアー」を開催しています。対象となる企業は、管内に多い、製造業が中心。食品、縫製、機械電子関係とバランスよく選定し、各校と調整しながら実施しています。また、より早い段階から地元企業に親しんでもらえるよう、今年度は小学生を対象に「親子企業見学」も予定しています。

新規就業者への個別面談で 早期離職を防ぐ

地元企業に就職した若者の早期離職を防ぐために、「ジョブカフェいわて☆カシオペア」で昨年度から実施しているのが、新規就業5年以内の高校・専門学校既卒者を対象にした個別面談です。企業からの依頼を受けて就業支援員が訪問し、仕事の内容や悩みなどを聞くもので、昨年度は7企業のおよそ34人に実施しました。悩みの内容によつては企業に相談し、解決してもらったこともあります。

二戸市の(株)十文字チキンカンパニーに勤め、入社した昨年に面談を受けた小倉和也さんは、「就業支

援員の方はガイダンスなどで面識があったうえ、自社の社員ではないので、面談ではざくばらんに話すことができました」と満足しています。

小倉さんは高校在学時に、「しごとメッセ」、「しごとフェア」に参加したり、面接指導でアドバイスを受けました。その結果、現在の会社で安定した企業であることを知り、インターンシップも経験して職場の雰囲気が良いと感じ、就職につながったそうです。

一方、上司である同社二戸工場製造二課主任の長野翔太さんは、「周辺に同業他社が多いため、自社の強みを伝える必要があります。その点で「しごとメッセ」、「しごとフェア」などのイベントは効果があり、また、個別面談などで来年度の最新情報まで情報交換できるのはありがたいです」と「ジョブカフェいわて☆カシオペア」を高く評価しています。



「(株)十文字チキンカンパニー」の小倉和也さん(右)と、長野翔太さん(左)

味良い、見た目良しで北いわての魅力PR

北いわて「ブランド果物」ストーリー

昼夜の寒暖差が大きく雨量が少ない北いわては、果物の栽培に適した地域。その気候を生かして様々な品種の果物が栽培されていますが、特に、生産者の意欲的な取組と、二戸農業改良普及センターやJAなどの協力体制により生まれた高品質の「ブランド果物」は、消費者から高く評価され、観光・交流の拡大にもつながっています。

生産者の努力と情熱が、品質向上・生産拡大を支える

北いわてでは夏から初冬にかけて次々と特別な果物が実ります。

7月
夏恋



鮮やかな色と美しいツヤから「赤い宝石」といわれる品種「佐藤錦」。その中から「糖度17度以上」、「Lサイズ」、「着色80%以上」のものを選びすくりました。県内産サクランボのトップブランドです。

8月

カシオペアブルー



大粒ブルーベリー品種「チャンドラー」の中から直径24ミリ以上を選別。こまめな剪定や選果など丹精込めて栽培した結果、大きいものは500円玉サイズにもなります。味も折り紙付き。

9月

エーデルロツソ



平成26年から販売された岩手オリジナルのぶどうで、赤紫色の大粒の実が糖度18~19度という強い甘み特徴。食べ応えのある大きさですが、皮がむきやすいので食べやすいと好評です。

枝の管理を徹底し生産増と風味アップに成功

岩手県でブルーベリーの本格栽培が始まったのは昭和57年。二戸市金田で「権七郎」を営む中里久雄さんは、その1年前から栽培に取り組み始めました。

りんご農家の中里さんは、初めてブルーベリー栽培に取り組んだことから失敗もありました。しかし、冬は畑の外周にネットを張って寒風で枝が枯れるのを防いだり、畑に灌水チューブを通して土が乾かないよう工夫。またJA新いわて北部地域ブルーベリー部会長として、これらを地元の農家にも教えて木のつくり方を指導するなどし、地域全体の生産量を増やしていきました。さらに、二戸市の依頼を受けて、大粒品種「チャンドラー」の栽培にも着手。生産者



枝いっぱい実ったブルーベリー



岩手県のブルーベリー栽培のパイオニア中里久雄さん

の仲間たちと研究を重ね、平成21年に「カシオペアブルー」を市場に送り出しました。

「栽培で重要なのは枝の剪定」と言い切る中里さんは、こまめに剪定して着花量を制限し、粒を大きく育てています。また剪定は、日当たりや風通しを良くし、風味の良さにもつながります。

「でもこれほど努力しても、1房の中で直径24ミリ以上に育つのは1個か2個。そこで1粒でも多く『カシオペアブルー』になるよう、剪定方法を研究しているところだ」と中里さん。さらなる生産拡大への期待が高まります。

きめ細かい作業と気配りが「赤い宝石」をつくる

県内一の栽培面積を誇る北いわてのサクランボ。その中でも選りすぐりの「夏恋」誕生の地が、一戸町小鳥谷地区です。ぶどう農家が



日光を浴びて輝くサクランボは「赤い宝石」

多かつた同地区では昭和62年、ぶどう以外の収入を得るために、高級品種である佐藤錦の栽培を開始。平成2年に無事に実が付くと、糖度17度以上、Lサイズ以上、着色80%以上のものを「夏恋」と名付け、売り出しました。

実を大きくし色づきを良くするために、葉を摘んだり、収穫直前に地面に反射材をして下から日光を当てることがあります。さらに収穫後も、枝の剪定・土づくり・芽の整理といった作業が続きます。果物は花が咲くまで前年の養分で育つため、この作業が来年の出来を左右するとあって気が抜けません。こうした生産者の熱心な作業

ときめ細かい気配りが、美しく風味の良い「赤い宝石」をつくり出しているのでしょう。

独自の栽培技術が生んだプレミアムりんご

「冬恋」はもとも「はるか」という品種のりんごで、平成20年に誕生。光センサー選果機によって糖度16度以上、蜜入り指数2.5以上の基準をクリアしたプレミアムりんごです。

特徴である濃厚な甘みとコク、きれいな黄色の「肌」は、1玉1玉袋がけをして、雪が降る頃まで「寒」に当てながら完熟するのを待つ「寒ざらし栽培」によって生まれます。この有袋技術を冬恋栽培に導入したのが二戸市の生産者・中野喜雄さんで、JA全農いわて、JA新いわて北部営農経済センター、生産者から構成される団体「岩手冬恋研究会」のメンバー。「冬恋」の生産販売は同会の会員のみで、会員の生産者は技術を厳守しマニュアルにしたがって栽培しています。この会員登録制の生産販売は県内初の試みで、「冬恋」の品質維持につながっています。

二戸農業改良普及センターの久米正明さんによると、「冬恋」の評価は年々高まっており、それに伴い生産も拡大し、その販売額は、平成31年度には27年度から倍増する見込みです。

果恋ジャー
初めまして!
かれん
私が「果恋ジャー」です!



二戸市 昆さよ子さん
(右は修行先の中野喜雄さん、左は同じく浪岡清美さん)

今年5月、二戸市が募集していた地域おこし協力隊「果恋ジャー」に採用され、仙台市から移住しました。二戸では父方の祖父母が農業をしており、2人の死後に休耕地となった畑を復活させたいと思ったのが、応募の理由です。今は中野さんと浪岡さんの2人の果樹園で手伝いをしていますが、何十年という長い期間で栽培を考えたり、味や見た目を追求する点に、果樹栽培のおもしろさを感じています。任期終了後は2人の師匠からの教えを生かし、祖父母の畑で果樹を栽培するつもり。また、地域が元気になるイベントなどを企画して、地域おこしにも取り組みたいです。

※9月から新たな「果恋ジャー」が1名着任する予定

12月
ふゆこい
冬恋



POINT!

独自の「寒ざらし栽培」により、糖度を高めました。糖度20度を超えるものもあるほどの強い甘み、たっぷりの果汁、シャキシャキした歯ごたえは、まさに「最高級のりんご」です。

11月
カシオペア・クイーンサンふじ



POINT!

りんごの王様「ふじ」を袋をくけずに育てた「サンふじ」は、甘みが強くジューシー。その「サンふじ」の中でも糖度が高く蜜が入ったものを厳選しました。特に贈答用として人気です。

10月
紅いわて



POINT!

濃い紅色の実が目を引く岩手オリジナルのりんご。甘みと酸味のバランスが絶妙で、ジューシーなのにパリッとした食感です。皮をむいたあとに果肉が変色しにくい点も特徴の一つです。



ギフト用として箱詰めされた「冬恋」



「冬恋収穫体験」ツアー(株川徳友の会提供)

「ブランドギフト商品の場合、産地による『格付け』がないと販売が難しいのですが、糖度や蜜入り指数という基準がある『冬恋』は明確な『格付け』があり、販売できました」とデパートの担当者は説明します。また、販売当初は売り上げがあまり良くなかったのですが、同研究会に協力してもらいギフト販売会場で試食会を開催したとこ

「限定品」としてお歳暮ギフトカタログに掲載し、高級果物として販売しています。

「ブランドギフト商品の場合、産地による『格付け』がないと販売が難しいのですが、糖度や蜜入り指数という基準がある『冬恋』は明確な『格付け』があり、販売できました」とデパートの担当者は説明します。また、販売当初は売り上げがあまり良くなかったのですが、同研究会に協力してもらいギフト販売会場で試食会を開催したとこ

流通関係者と協力し、ブランド化に成功

そもそも果物のブランド化を進めたのは、生産者の所得向上が目的です。そのためには緻密な販売戦略が欠かせません。その点で「冬恋」は、「冬恋研究会」が販売業者と協力して流通対策に取り組み、ブランド化に成功しています。

県内の老舗デパート、盛岡市のカワトクでは、「冬恋」を誕生当初から「限定品」としてお歳暮ギフトカタログに掲載し、高級果物として販売しています。

ブランド果物の販売戦略構築と、産地やブランド果物の情報発信を展開

収穫体験で産地の魅力もPR

気候や土壌に恵まれた北いわての果物は品質が優れ、県内外で高く評価されるようになりましたが、産地としての知名度はあまり高くなりませんでした。

そこでさらなるPRと販売促進、観光資源としての活用などを目指し、平成24年、二戸農業改良

る、売り上げが少しずつ伸びたそうです。「贈った相手に喜ばれたから」とリピーターも多く、現在も売り上げは右肩上がりとなっています。

さらに、販売業者にとっては全面的品質管理も販売取扱の重要なポイントになりますが、「冬恋」の場合はJAの集荷場で厳しく選果される点が「信用」となり、販売取扱の増加やブランド化につながっています。

そのうち(株)川徳友の会とは、昨年11月、二戸市内で会員を対象とした収穫体験事業を実施。「冬恋」の収穫体験のほか、「食体験」として二戸地域の食の匠認定料理の調理と試食、「加工体験」としてりんごジャム作りを体験してもらいました。同社の事務局長・高橋和博さんは、「収穫体験時に生産者の方

普及センター、観光果樹園、JA、市町村などが協力し、二戸地方観光農業協議会を設立しました。

協議会では平成24年度から26年度にかけて、観光マップの作成、試食会や果物を使った菓子作り会の開催、キャラバン、県北広域振興局副局長によるトップセールス、ラジオ・テレビ出演などのPR活動を展開。そして昨年度は、(株)川徳友の会やIGRいわて銀河鉄道(株)、二戸市観光協会などと連携し、サクランボや「冬恋」の収穫体験を合計8回開催しました。

今年度、協議会では県の広域振興事業「カシオペア果物振興プロジェクト」に企画。二戸地域のブランド果物の評価向上・販路拡大を計画しています。マスコミやタウン誌等を利用した情報発信、観光分野と連携したファン拡大、首都圏等の高級百貨店への販路拡大、そして糖度計や蜜入りセンサーを活用した品質向上への取組を進めています。

が栽培法を説明してくださったのですが、どれだけ愛情を込めて栽培しているかわかり、「冬恋」ブランドの認知につながったと思います」と生産者の取組を評価します。事業そのものも参加者のほとんどから好評だったことから、協議会では今年6月にも同社と連携して二戸市内でサクランボの収穫体験を実施。また冬も、昨年同様に「冬恋」の収穫体験を実施予定です。これらの収穫体験はすべて、周辺の産直や物産センターに立ち寄るコースに設定しており、地域の観光や魅力PRの面でも大きな成果があります。



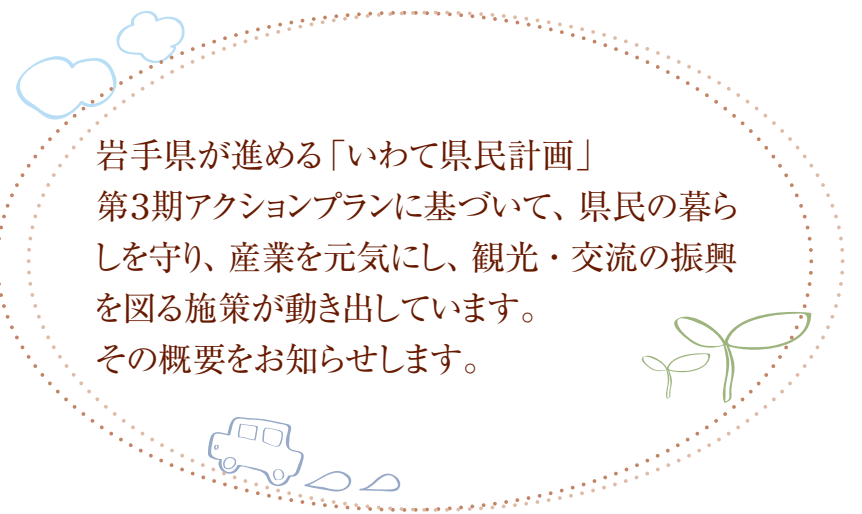
「さくらんぼ摘み」体験(株川徳友の会提供)

県北広域トピックス2016

ゆたかさ つながり ひと

～いっしょに育む「希望郷いわて」～

岩手県が進める「いわて県民計画」
第3期アクションプランに基づいて、県民の暮らしを守り、産業を元気にし、観光・交流の振興を図る施策が動き出しています。
その概要をお知らせします。



「北いわてから新たなファッションを発信 北いわて仕立て屋女子会」結成

縫製だけでなく、デザインもパターンも手がけたい

久慈、二戸地域には多くの縫製業者が集まっており、質の高い縫製技術で知られています。その県北地域の縫製業をもっと盛り上げようと、昨年、北いわてに拠点を置く縫製業16社によって「北いわてアパレル産業振興会」が設立され、縫製業のイメージアップと人材育成が進められています。振興会は県北広域振興局の後を引き継いで、平成28年2月に「第3回北いわて学生デザインファッションショー」を開催。

さらに今年度は、振興会会員企業9社から9人の女性が参加して、「北いわて仕立て屋女子会」を結成しました。女子会では、企業の工場見学や、県が連携協定を結んでいる文化学園の文化ファッション大学院大学などから講師を招いて、デザイン画やパターン作成などの研修を行いながら、9人がそれぞれオリジナルの服を制作。成果は来年2月の「第4回北いわて学生デザインファッションショー」で披露される予定です。縫製業に携わる9割は女性。その女性たちが女子会の活動を通じてスキルアップし、北いわての縫製業がさらに盛り上がり、イメージアップにつながるよう、今後の女子会の活動に期待が寄せられています。どんなファッションが誕生するか、来年のショーにご期待ください。

【問合せ先】二戸地域振興センター
0195-2319201



意欲的に研修に取り組むメンバー

二戸をもっと盛り上げたい 戦国武将・九戸政実を生かす 地域おこし

地元若者たちによる
九戸政実武将隊の結成も

豊臣政権に異議を唱え、わずか5千の兵で、6万5千の豊臣軍に立ち向かい、一歩も退かずに戦った戦国武将「九戸政実」。この郷土の英雄「九戸政実」を全国に知らせるとともに、二戸の魅力を発信していくという官民あがりの取組が進められています。

平成25年、二戸地域振興センターと九戸城ボランティアガイドの会など関係団体が連携して「九戸政実プロジェクト」を開始。漫画キャラクターの作成、まちおこしフォー

ラムの開催、市民文士劇の上演などを行ってきました。

平成27年には、九戸政実の思いを受け継ぐ熱き若者たちが「九戸政実武将隊」を結成。数多くのイベントに出演し、甲冑姿での踊りや殺陣などの戦国パフォーマンスで地域を盛り上げてきました。今年度は「おもてなし班」も加わり、九戸城での来場者の案内や二戸駅での帰省客の迎えなど、イベント出演以外にも活動の場を広げています。

そしてこの9月24日(土)には、プロレスラーで城マニアとしても有名な藤波辰爾さんをゲストに招き、九戸城や九戸政実に関するイベントを開催。戦国武将・九戸政実による地域おこ



ふじなみたつみ
藤波辰爾さん



二戸地域を盛り上げる「九戸政実武将隊」

しが一層盛り上がりを見せています。
【問合せ先】二戸地域振興センター
0195-2319201
九戸政実プロジェクトホームページ
<http://masazane.com/>

脳卒中を減らそう 健康で長生きするための 食生活改善活動

着実に広がりつつある
「減塩・適塩」活動の輪

脳卒中による死亡率が全国ワーストワンの岩手(平成22年)。なかでも県北地域の男性の死亡率は依然として高い状況にあります。

その原因の一つが塩分の摂り過ぎ。(平成24年・全国10.4g/日、岩手県11.8g/日)脳卒中をはじめ、生活習慣病予防のための1日の塩分量の目標は成人男性8g、未満、女性7g、未満、高血圧の方6g未満で、健康で長生きするためにはできるだけ塩分の摂取量を抑える必要があります。そこで保健福祉環境部では、市町

村の関係機関や食生活改善推進員などと協力して、「減塩・適塩」の普及に継続的に取り組んでいます。

特に適塩濃度0.8%の味噌汁を試飲してもらうキャンペーンや、食生活改善推進員が各家庭を訪問して味噌汁の塩分濃度を測定する「突撃!隣のお味噌汁」の活動(久慈、二戸保健所管内1135家庭を訪問)などは、体験を通して減塩の必要性を実感できる機会となるため、健康意識を変えることに役立っています。また、二戸保健福祉環境センターでは「カシオペア連邦健康21ネットワーク会議」と共に「二戸地域健康川柳」を募集し、最優秀賞には小寺三枝子さん(二戸町)の作品「減塩で 岩手



健康川柳を募集し、入賞者を表彰

【問合せ先】県北広域振興局保健福祉環境部
0194-5314987

の人は「NO卒中」が選ばれました。このような健康増進活動は、関係機関だけでなく、飲食店や学校、高校生など、地域全体での取組となっており、活動の輪がさらに広がっています。

山ぶどうを核とした地域づくり

「涼海の丘ワイナリー」オープン

県内初の非加熱による山ぶどうワインの開発

野田村の海見える丘に山ぶどうワインの醸造所「株式会社のだむら ワイン醸造所」(愛称「涼海の丘ワイナリー」)が完成し、いよいよ10月9日(日)に醸造開始式が行われます。

野田村など、久慈地域はもともと山ぶどうの産地。自生する山ぶどうを1本1本挿し木で増やすなど、栽培農家が丹念に生産量を増やす一方で、久慈農業改良普及センターなどの指導を受け、酸味が少

なく早熟の「野村系」、しっかりと酸味の「葛巻系」など、系統の栽培にも熱心に取り組んできました。そこで「株式会社のだむら」では、震災からの復興に向けて山ぶどうのオリジナルワインの開発と醸造所の建設に着手。あえて1、2週間遅摘みして糖度と熟度をあげた果実を非加熱で発酵させるワイン造りに取り組みます。販売ワインとしては県内初の非加熱によるワイン醸造で、来年3月には1万本が出荷される予定です。

村外での委託醸造から、自分たちの村のワイナリーでの醸造へ転換することで、生産者の意欲の向



海を見ながらワインを味わえる「涼海の丘ワイナリー」

上はもちろん、交流拠点としての機能や新たな雇用の創出にもつながると期待されています。また「野田村ワイナリーサポート会員」を募集するなどして販路の開拓にも努めており、地域の活性化にも役立つと期待されています。

【問合せ先】県北広域振興局農政部
☎0194-5314983

浜の活性化と漁業者の意欲向上をめざす「密かな浜の産直」

浜の産直が拡大中

自分たちで獲って、自分たちで売る喜び

自分たちが獲ってきたものを自分たちで販売する産直は、消費者の反応に直に触れられるいい機会であり、生産意欲の向上と浜の活性化につながります。

1年に1度、密やかに開かれる「浜の産直」の狙いもまさにそれで、水産部では平成26年度から、「久慈地域『海の幸』PR協議会」と連携し、ノボリや焼き台購入など、産直立ち上げの初期費用を支援する事業を行っています。「種市南漁業協同組合中野実行

部会」の産直は今年度で3回目の開催。同じく3回目となる「久慈市漁業協同組合待浜生産部」の産直は、時化のため残念ながら中止となり、来年へ向け決意を新たにしました。

今年度から新たに「久慈市漁業協同組合夏井生産部」と「久慈川漁業協同組合」が仲間に加わり、活動が拡大しています。「夏井生産部」の産直は、もぐらんぴああ祭り(7月23日、24日)で店開き。地元

のシンボル、もぐらんぴああ復活に合わせた産直オープンとあって、生産者も地元も大いに盛り上がりました。久慈川漁業協同組合による「川の産直」は、8月12日に「大



新鮮な海産物を求める人で溢れ、会場は大盛況

川目第2ふ化場(久慈市)で活アユや活ヤマメを販売。市民の方々や釣り人などに久慈川の魅力を知ってもらう機会となりました。漁業者自らが運営する産直での購入は北三陸の漁家と地域を元気にします。みんなで応援していきましょう。

【問合せ先】県北広域振興局水産部
☎0194-5314985

元気な木炭生産地をめざして 木炭生産者価格の安定による経営意欲向上の取組

県北地域は日本一の炭の里

日本一の生産量を誇る岩手の木炭。それを支えているのが県北地域です。黒炭の生産量は2954t(平成26年)に及び、岩手県内の9割、全国の4割の生産量を占めています。また、県北地域の林業生産額(約25億円)の2割相当を占める重要な産業の一つになっています。

しかし大半が個人生産のため、移住業者などの買取業者の言い値で販売せざるを得ない状況にあり、生産者価格の安定化が急務になっています。更に生産者の高齢

化も進んでおり、後継者不足も深刻な問題になっています。

林務部では、県北地域の木炭生産者が組織する「北いわて木炭産業振興協議会」と連携して、生産者が置かれている現状や課題を踏まえ、生産した木炭を適正な価格で販売できる仕組みづくり等に取り組んでいます。

今年度は、生産者一人一人の意識調査や連携による発言力の強化、ユーズーが求める木炭品質の向上とブランド化を目指した地理的表示制度など「木炭生産力向上の検討会」を開催するほか、11月19日



火持ちが長く火力が強い県北の木炭(黒炭)

(土)には、元気な木炭産地づくりに向け、一般の方の参加も募って「北いわて木炭生産振興大会(会場・久慈市総合福祉センター)」を開催し、県北地域が日本一の炭の里であることを広くPRします。

【問合せ先】県北広域振興局林務部
☎0194-5314984

安全安心な街づくりの基盤整備を進める

災害に強い道路を作ろう

整備が進む

「野田山形線の野田工区」と「395号赤石峠」

安全安心な暮らしの基盤となる道路。特に三陸沿岸地域では、役場や消防、救急医療施設など、防災・医療拠点へアクセスする道路や、水産業をいち早く復興させるための道路整備が欠かせません。県では、それら「復興関連道路」の早急な整備を進めています。

野田村野田地区では、国道45号を起点とし、三陸沿岸道路(仮称)野田ICへ接続する県道「主要地方道野田山形線野田工区(延長約

1.5km)」の工事を進めています。

この新しい県道工事は、浸水想定区域外に道路を付け替え、災害に強いまちづくりを進めるもの。村で整備を行った新町地区高台団地へのアクセスも大変便利になります。旧道からの切り替えが完成し、供用開始となるのは平成29年度の予定です。

また、軽米町の一般国道395号赤石峠工区ではS字カーブや急勾配を解消する改良工事(延長区間880m)が進められています。これまでは道幅が狭く、特に冬期間は堆雪帯がないため寄せた雪でさらに道幅が狭くなり大型車通行に支障がありました。幅員を6.



復興支援道路工事は順調に進行中(野田山形線)



安心して運転が出来る様に道路を拡幅(赤石峠)

0mから9.5mに拡幅するため、走行性が向上します。国道395号は内陸の二戸と沿岸の久慈を結ぶ、県内最北端の横断道路。供用開始は平成28年度末の見込みです。

【問合せ先】県北広域振興局土木部
☎0194-5314990
二戸土木センター
☎0195-2319209

台風第10号による被害について



久慈市本町から久慈駅方面を望む(8月31日8時頃)



久慈駅付近での道路側溝の泥除去(9月6日)



ボランティアの皆様による復旧作業への支援(9月6日、久慈市中央1丁目)



応援メッセージが添えられた民家脇の土のう(9月6日、久慈地区合同庁舎付近)

8月30日に岩手県に上陸した台風第10号は、大雨による河川の氾濫や浸水、土砂災害等、これまでにない被害を多数もたらしました。県内では16名の方が犠牲となり、7名の方の安否が確認できない状況となっています。管内においても久慈市で1名の方が犠牲となりました(9月6日現在、岩手県災害対策本部発表)。

亡くなられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災され

た方々に心よりお見舞い申し上げます。

皆様の暮らしが少しでも早く元の状態に戻るよう、国や市町村、関係団体等と連絡しながら復旧に向けた取組を進めてまいります。また、一人ひとりが心豊かに暮らすことができる、安心・安全なまちづくりに全力で取り組んでまいります。

平成28年9月6日

岩手県県北広域振興局長 八重樫 一洋



県北地域産直・特産物マップ

「2016 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」開催による地域外の来訪者などの増加を見越して、県北地域の魅力発信と特産物のPRを目的とした産直・農家レストランのマップを制作しました。

B2判サイズのリーフレットで開きやすく、持ち運びしやすい大きさです。産直やレストランの写真がフルカラーで掲載されており、所在地、連絡先、営業日のほか、地図にリンク可能なQRコードなどの知りたい情報がわかりやすく掲載されています。県北地域の旬な食材などの産直情報も掲載されているので、今が食べ時の特産物もチェックできます。そのほかマップには、道の駅、名勝、ドライブポイント等が掲載されており、県北地域の便利な旅のお供になります。



北緯40°ナニヤトヤラ連邦会議

八戸・久慈・二戸の三圏域は、ほぼ全域が北緯40度内に入り、この地域に古くから伝わる盆踊り「ナニヤトヤラ」と組み合わせた「北緯40°ナニヤトヤラ連邦」という愛称を用い、活力ある地域づくりを進めていくための連携した活動を行っています。

三圏域では近年の日常生活圏の広域化に伴い、その結びつきが強くなってきています。それぞれが守り伝えてきた地域資源を、お互いが最大限に活かすことで、三圏域全体の地域振興に結びついていくと考え、三圏域の中心都市(八戸市・久慈市・二戸市)と各々の圏域を担当する県の機関が一堂に会する協議・意見交換の場として平成18年に設置されたのが、「北緯40°ナニヤトヤラ連邦会議」です。

現在、防災協力体制、産業経済活性化、広域観光、森林資源活用、スポーツ・文化交流の5つの専門部会で、三圏域の地域振興に向けた協議を行い、連携協力事業を推進しています。



平成28年度の主な取組

防災協力体制	市町村相互応援協定に係る応援要請の情報伝達訓練
産業経済活性化	企業等に対するイベントや商談会への出展支援(はこだてグルメサークス、とり肉産地PRイベント、商談会)
広域観光	北緯40°ナニヤトヤラ連邦PR動画制作/観光PRイベントでの三圏域のPR(北限の海女フェスティバル、はこだてグルメサークス、弘前さくらまつり、八戸三社大祭、東北六魂祭)
森林資源活用	地域材活用セミナー開催、林産物PR
スポーツ・文化交流	パークゴルフ交流大会(二戸市、8月20日) 郷土芸能交流祭(久慈市、2月19日)
その他	三市の広報紙面における相互記事掲載 三市ふるさと納税の相互PR

北緯40°ナニヤトヤラ連邦ふしぎ発見!

YouTubeで好評配信中!
ぜひ見に来てね!!

「北緯40°ナニヤトヤラ連邦」を構成する八戸市小林市長・久慈市遠藤市長・二戸市藤原市長のアニメキャラクターが活躍するPR動画。「謎男&謎子」が、地元の人知らない事や知りたい事について、密着取材した内容をクイズ形式で配信します。



アンケートへのご協力をお願いします 今後、全戸配布広報誌「北いわて最前線」をより充実した内容にするため、皆様の声をお聞かせください。

- (1) 記事はわかりやすかったですか? (番号で回答)
①非常にわかりやすい ②わかりやすい ③普通
④わかりにくい ⑤非常にわかりにくい
- (2) 今回の記事に興味を持ったものは何ですか?
- (3) 本誌へのご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

※回答は、右の二次元バーコード、はがき、FAX、電子メールのいずれかによりお願いします。
◆送り先/【はがき】〒028-8042 久慈市八日町1-1 県北広域振興局「北いわて最前線アンケート」係
【FAX】0194-53-1720【電子メール】BK0001@pref.iwate.jp
◆締切/平成28年10月31日(月)



スマートフォン用



携帯用